

第1回里山広葉樹利活用推進会議概要

1 開催日時及び場所

日時：令和6年11月28日（木）14：00～17：40

場所：飛騨市役所大会議室

2 出席委員

第1回里山広葉樹利活用推進会議出席委員名簿のとおり

3 意見交換の概要

（青井委員）

- ・素材生産のテコ入れ、流通の整備が必要ではないか。
- ・広葉樹資源はないが需要がある地域（福岡県大川市、広島県府中市等）を巻き込んでいければと思う。

（海堀委員）

- ・乾燥期間中（半年～1年程度）の在庫負担と割れや品質劣化から調達の難しさを感じている。
- ・安定調達のための製材所、市場の整備ができればと思う。
- ・国産材フローリングの価値はなかなか消費者に響かない。例えば大手のハウスメーカーなどはエシカル消費やネイチャーポジティブなどに興味があるため、そういったところに訴えかけると響くといったことがある。

（加藤委員）

- ・並み材がチップ用材として使われている現状を変えていければと思う。
- ・ナラ枯れ材については結構ポジティブアクションが多く、魅力的だなという実感がある。

（末吉委員）

- ・広葉樹の利用促進には消費者の暮らしにどう取り入れてもらうかが鍵になると思う。
- ・需要の創出には何らかのインセンティブ、結果の見える化が必要だろう。
- ・森林とか生物多様性といった話の中で何か消費者生活を動かしていくときには、他の社会課題と組み合わせて、同時にいろいろな課題が解決していくような取り組みにより、間口が広がっていくのではないかと考えている。

(鈴木委員)

- ・木材利用における問題点は川下～川上の連携がされていない点。本来は川上に川下のニーズを伝える人がいなければならないのでは。
- ・川上から川下の情報を共有する全国広葉樹団体連合会の復活が必要ではないか。
- ・高性能林業機械で広葉樹伐採をする場合にどういう工夫をしたらうまくいくかといった事例を集めて紹介するっていうことが大事だと思う。
- ・広葉樹の最大のポイントは巨大な用材でも細い用材でもチップにしてしまうこと。用材として高く売った場合との価格差で関係者いかに損しているかを伝えることも重要だと思う。

(都竹委員)

- ・広葉樹の活用は出口が重要で、出口のニーズを川中と川上へ伝えていくことが重要だろう。
- ・トレーサビリティの観点より FM 認証も有効と考える。
- ・広葉樹利用は、川上から川下、ユーザーと販売者を繋げることができる、顔が見えることが良さだと感じている。ニーズにこたえられる川中の仕組み、川下の家具メーカーや作家とつなげる人の存在、ニーズに合わせて木を伐倒する人(その技術の確立が不可欠)などがつながった組織ができてると顔がみえるという広葉樹の特徴になると思う。

(西野委員)

- ・最近の研究成果などをとりまとめた森づくりマニュアルの作成が必要だと考える。
- ・既存の本などをとりまとめ、森づくりの指針を出していくことも大事ではないか。
- ・これまでの議論は、需要と供給（マッチング的な話、BtoBなのかBtoCなのか、大量生産または高付加価値）、量と質（大量生産と高付加価値なのか）、情報共有と協働（都市と地方を結ぶ、消費者と共有することによって初めて価値が生まれたり）の3つに分けられるのではないか。

(岩村委員)

- ・コロナ禍後の高品質な国産木炭のニーズの高まりに国内生産が若干追いついていない。業界全体としては国産木炭の生産拡大を図っている。

(森松委員)

- ・里山広葉樹林の伐採は再生もセットで行う必要がある。
- ・広葉樹材の利用については出口対策として継続的かつ新たな活用を見出すことが重要と考える。また、その価値、利益を出すことによって次の世代をしっかりと育てていくのが必要だと考える。

- ・コナラ等の旧薪炭林（50～60 年生）は萌芽更新が難しい為、播種か苗木の植栽をするしかない。最初の5年くらいは下刈りが必要となる。少しでもコストを下げるには萌芽更新で回していくのがベストで、利益を上げてそういった施業に投資できるようにしないとけないと考える。
- ・広葉樹伐採は手間がかかるため、非効率的で事故も多い。何らかの行政支援が欲しいところ。

（土屋委員）

- ・地域とうまく付き合って森林を守っていくには、その資源をいかに使っていくかを考えていかないとけない。自治体が主体となって地域振興にかかる利活用、里山広葉樹林の持続的な管理、生物多様性の再生・回復、3つのバランスを保つ必要がある。

（以上）

第1回里山広葉樹利活用推進会議出席委員名簿

氏名		所属
委員	青井 秀樹	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 チーム長
	海堀 哲也	朝日ウッドテック 株式会社 代表取締役社長
	加藤 洋	カリモク家具 株式会社 取締役副社長
	末吉 里花	一般社団法人 エシカル協会 代表理事
	鈴木 信哉	ノースジャパン素材流通協同組合 理事長
	土屋 俊幸	公益財団法人 日本自然保護協会 理事長（東京農工大学 名誉教授）
	都竹 淳也	飛騨市長
	西野 文貴	株式会社 グリーンエルム 代表取締役社長
	岩村 真平 （代理出席）	一般社団法人 全国燃料協会 専務理事
	森松 亮	富山県西部森林組合 代表理事組合長

（50音順、敬称略）